



# 望と勇

令和8年1月30日  
No.44  
文責 田中 誠

## 当たり前のことの大切

火曜日、東小学校に城東地区（第一中、神川小、第五中、神科小、豊殿小、上田養護学校）6名の校長先生方がお見えになり、2時間目の授業とその後のカモーンひがしつ子タイムの様子を参観されました。各教室1～2分という短い時間ではありましたが、東小学校の子どもたちの学びの姿を見ていただき、感想をいただきました。

（緊張のあまり写真撮影を失念しました…。）

- ・落ち着いて学習に取り組んでいますね。
- ・どの先生の授業も、当たり前のことが当たり前にできているように感じました。
- ・受け入れる側として、6年生の授業に注目しました。緊張感の中にも笑いがあり、いい授業風景だなと感じました。
- ・コミュニティルームに活気があって驚きました。ボランティアの方を通じていろいろな学年の子どもたちがかわわりあっている姿が素晴らしいと思います。何人の方がメンバーとして登録されているのか、どういう経緯でお集りなのか、詳しくお聞きしたいと思いました。

・先生方の授業の、なんというか「感じ」がそろっていると思いました。学習問題や板書など、そろっている印象です。何か秘密があるのかなと思いました。

子どもたちと先生方、そして地域の方々の頑張りを校長先生方に褒めていただき、とてもうれしい気持ちになりました。

また、水曜日には東信教育事務所より甘利主任指導主事をお迎えし、今年度の授業実践の振り返りを行いました。そこでは、長野県で大事にしてきた授業が、実は最新の授業と通じているというご指導をいただきました。いわゆる長野県の教師にとっての当たり前の授業は最先端である、ということです。

至らないことはまだまだありますが、学校として目指している授業の形に対して、外部の皆様から評価をいただけたことは私たちの勇気につながります。「今日の授業で何をどのように学習するのか子どもたちが見通しをもって取り組む」という当たり前を、ますます磨いてきたいと思います。